大井第一マイ・タウン21

１月号 №２００

発行：編集委員会
住所：南大井１－１２－６
大井第一地域センター内
電話：３７６１－２０００
ＦＡＸ：５４９３－７２８６
令和２年１２月２０日発行

おかげさまで、『大井第一マイ・タウン21』は、昭和62年9月の創刊から今回200号を迎えることができました。
これからも、引き続きご愛読をよろしくお願いいたします。

＜　町会より　＞

地域で守る大井坂下町会

大井坂下町会

皆様あけましておめでとうございます。本年も大井坂下町会をよろしくお願い申し上げます。

昨年はコロナウイルス感染拡大により大変な年となってしまいました。皆様も、今までに経験のない日々を過ごされたことと存じます。今年も気を緩めることなく、感染拡大に注意をしながら新しい生活を、地域の皆様と共に築いてまいりましょう。

さて大井坂下町会では、例年大井警察署、大森ベルポート郵便局と連携し、町会員の皆様に「詐欺被害に気を付けましょう」等、その時期に即した、犯罪被害に対する注意喚起を促す葉書を送付しております。オレオレ詐欺に始まる色々な詐欺被害は、今も形を変えて皆様の善意の心を侵害してきます。自分は大丈夫と思う気持ちは誰でもお持ちかと思いますが、犯罪は年々巧妙になり、品川区内の詐欺被害はまだまだ多い現実があります。犯罪者が嫌がることとしては、家族の繋がりによる詐欺被害の予防や地域の連携による不審者が侵入し難い環境つくり等が挙げられます。今年も町会として一致団結し、町民と町会内企業の皆様が、共に楽しく安全に、過ごしやすい町会を目指し活動してまいります。

各町会・自治会の皆様、本年も安心安全でたくさんの笑顔に出会える街、大井第一町会連合会を皆で支えてまいりましょう。

コロナ禍でも嬉しいニュース

東大井月見台町会

コロナ禍の昨年は町内会活動や大井第一地区の行事もほとんどが中止となりました。そんな中でも嬉しい話題を２つご紹介します。

一つは、昨年１０月に実施された国勢調査です。５年に一度の総務省による全国民に対する基礎統計調査ですが、今回はコロナの影響もあり調査員が足りないというニュースがありました。でも、月見台町会では７名の方に調査員を引き受けていただくことができました。集合住宅は表札が出ていない住戸も多くなり、在宅確認も難しいなど以前より調査環境は厳しくなっています。

事前説明会の時に調査員の身分証の写真を撮影したのですが、マスクをつけているため「あらやだ、ほとんどノーメイクで来てしまってた！」という女性もいて、笑いも飛び出しました。

過去にも調査員をされた方、初めて引き受けた方とバランスよく、ベテランは調査票の記入を教えたり、インターネットに詳しい人はインターネット調査についてわかりやすく説明したりと互いに協力し合い調

（次ページへ続きます）

（前ページからの続き）

査を終了することができました。

もう一つは、町内会の掲示板です。懸案だった古い掲示板が、ガラス扉付きの新しい掲示板になりました。掲示物が雨で濡れることも、台風で跡形もなく飛ばされてしまうこともなく、大変見やすくなったと評判です。古い掲示板の時には存在さえ知らなかったという方もいて、注目度も全然違うのを実感しました。

新しくなった掲示板

ウィルスが収束して、再びたくさんの楽しいお知らせが、掲示板を埋め尽くす日が一日も早く訪れることを願っています。

＜　私たちの町　今は昔①　＞

鮫洲の昔話

～鮫に追われた若い漁師を救った観音様～

『マイ・タウン２１』では、いつも品川区民まつりや連合大運動会など大井第一地区の大きな行事の報告や町会の活動を載せていますが、昨年はコロナ禍の中、大きな行事は軒並みできませんでした。そのため空いた紙面をどのようにしようか、編集会議で検討した結果、郷土の昔話を発掘してみようということになりました。大井第一地区の海側を南北に走る旧国道は、昔から続く東海道です。探せば面白い話は結構あるように思います。そこで今回は鮫洲に伝わる昔話の一席。お付き合いください。

７５０年程の昔の鎌倉時代、執権　北条時頼の頃のお話です。品川付近は良い漁場で魚がたくさん取れましたが、時々鯨や人喰い鮫も外海から入ってきて、漁師を困らせたようです。ある日、漁に出た若い漁師たちが、これまでの晴天からにわかに湧いた黒雲に不安を覚えた時、運悪く巨大な鮫に遭遇してしまいました。鮫は口を開け、漁師たちを喰わんと追いかけてきます。漁師たちは必死に櫓を漕いで逃げようとしますが、鮫は舟の周りをグルグル回りだし、今にも飛び掛からんばかりです。

一人の若い漁師が「誰かが海に飛び込み、犠牲になっている間に他は逃げよう」と提案しました。みんなは互いの顔を見回すだけで次の言葉が出ません。「いいよ、俺がやってやろうじゃないか」。言い出しっぺの漁師は観音経を唱えながら、鮫がいる海に飛び込でしまいました。みんなは思わず手を合わせ、神仏に祈るしかできませんでした。恐る恐る海を見ると沈んだはずの若い漁師は元気な顔を見せ、波の間に浮かんでいます。鮫の姿も消えていました。みんなは大歓声を上げ、漁師を舟に助け上げました。助けられた漁師は自分の腹帯をのぞき込んで「あれ、観音様がない、どこへ行った!!」と大騒ぎです。若い漁師は日頃から観音様を信じ、白布に包んだ小さな観音像を腹帯に巻いていたのです。数年後、漁師たちは巨大な鮫を捕らえました。解体したところ腹から観音像が出てきました。「観音様が身代わりになってくださった」とこの出来事は村中の評判になりました。これからこの辺りを鮫洲と呼ぶようになったそうです。この話は北条時頼にも伝わりました。

時頼は「めでたいことの前ぶれ」と喜び、海辺近くに観音像を安置するお堂を立てました。これが現在の海晏寺の始まりとのことです。

絵と文：東大井林町会 松井 一雄
出　典：しながわの昔ばなし